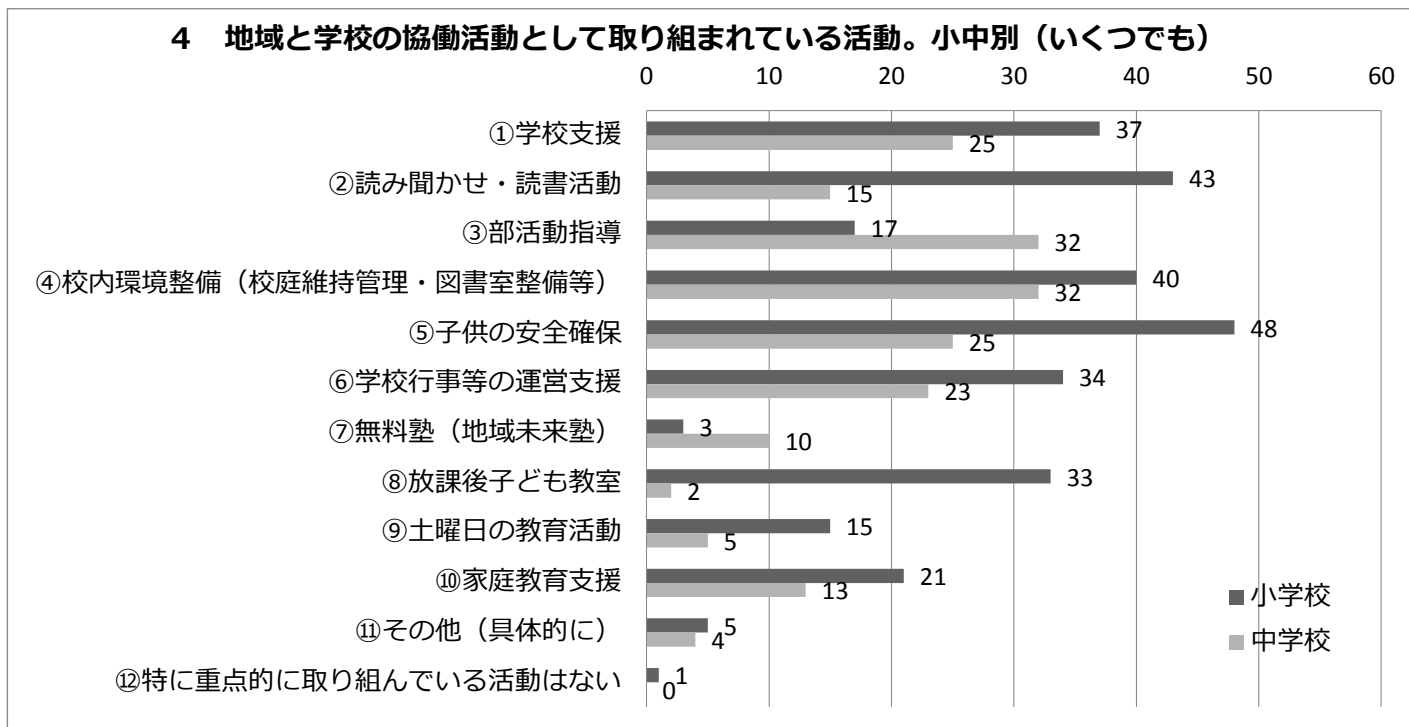
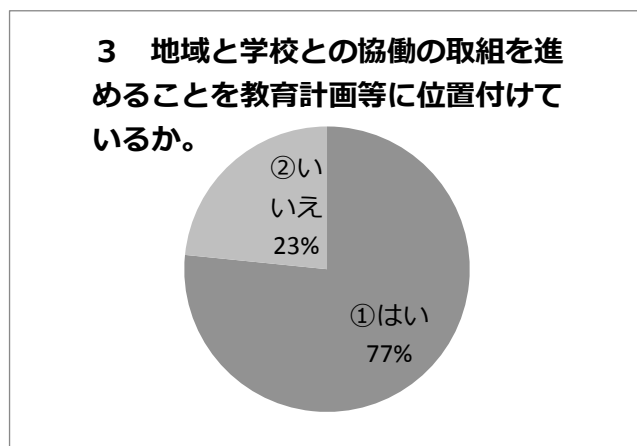
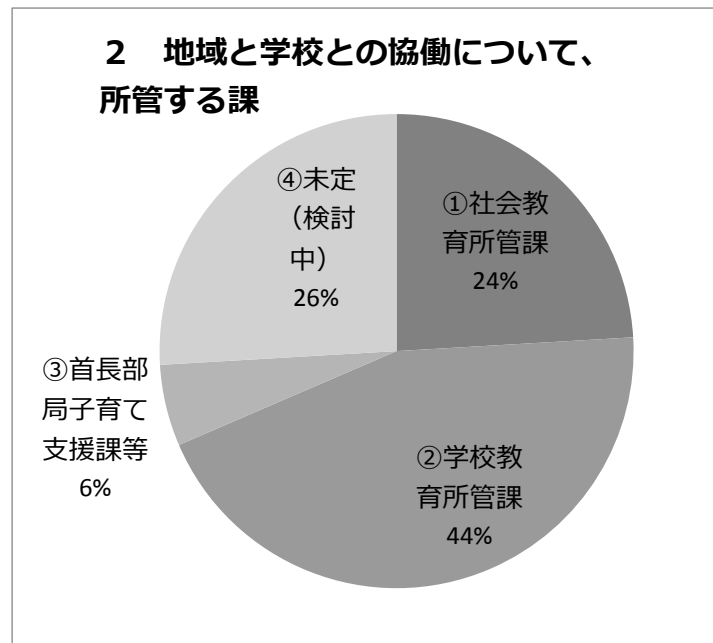
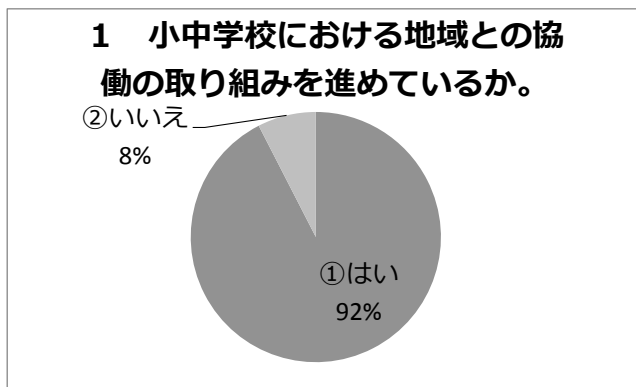


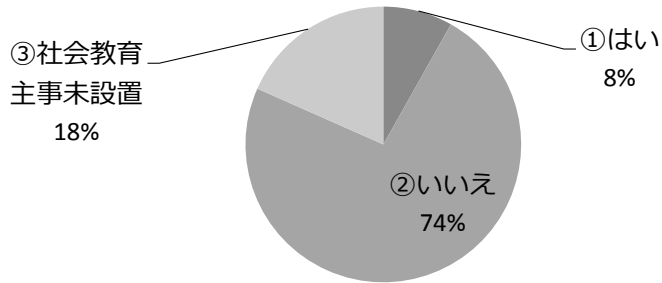
地域と学校が連携・協働した取組に関する調査結果



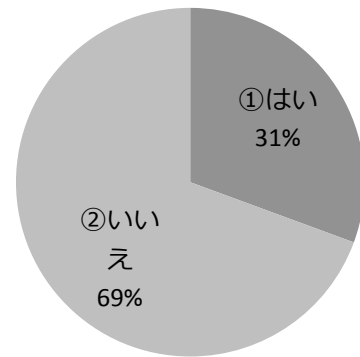
その他

- ・ 教員研修の講師
- ・ 子ども会議への参加、防災教室の実施、地域の方を講師とした講座の実施
- ・ 避難所体験活動（小学校） ・ 中学生ボランティアによる活動支援
- ・ 地域がその地域にある小学校の部屋を夏休み期間中に活用して、小学生の宿題の場を提供するとともに地域と子どもの交流を図る取組を行っている。
- ・ 外国人生徒支援として日本語を指導している。
- ・ 学校を核とした地域魅力化事業の実施

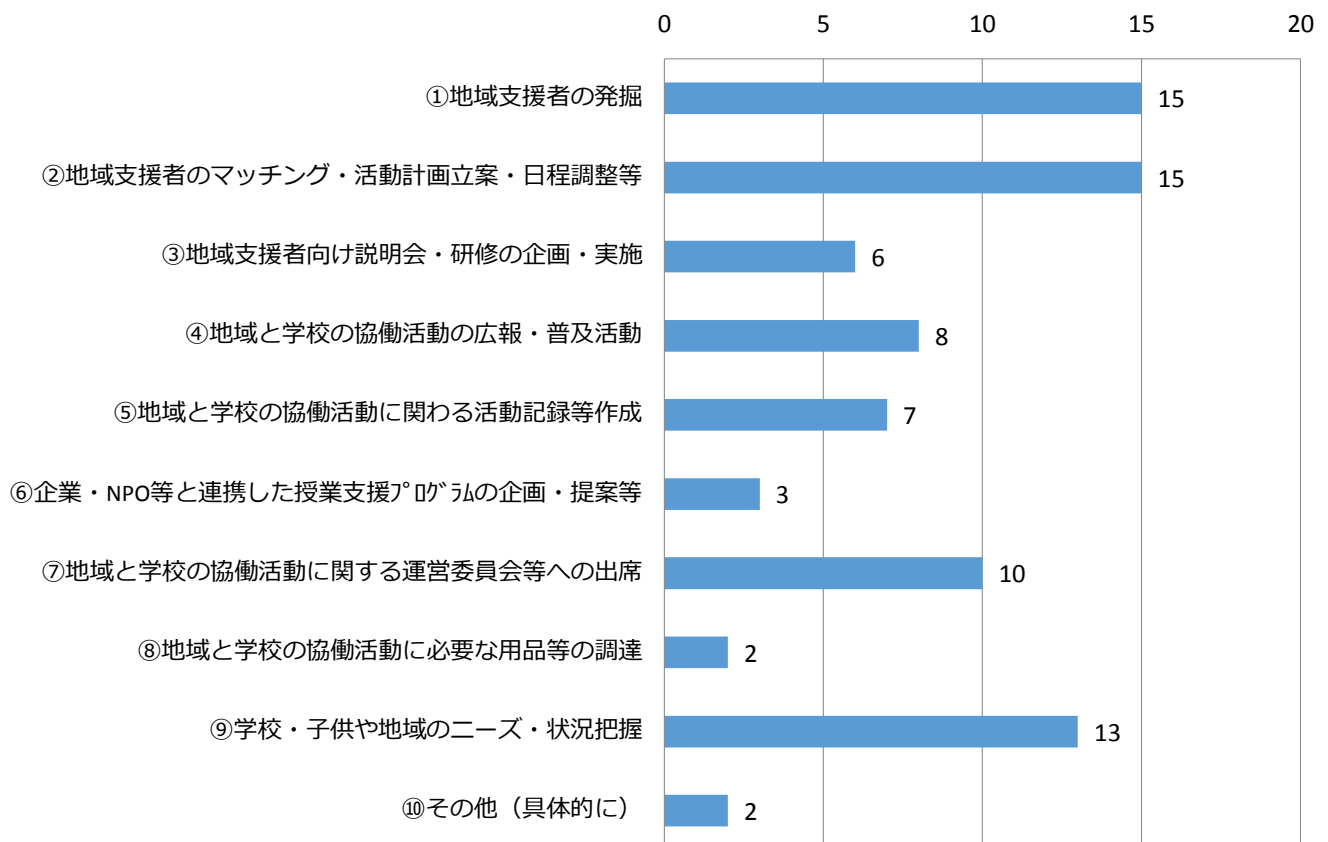
5 地域と学校の協働活動を進める役割を社会教育主事が担っているか。



6 地域と学校の協働活動を進めるコーディネーターを置いているか。



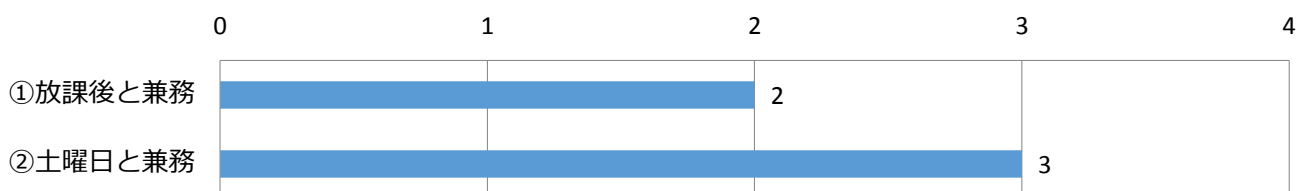
7 コーディネーターの活動内容として期待していること（いくつでも）



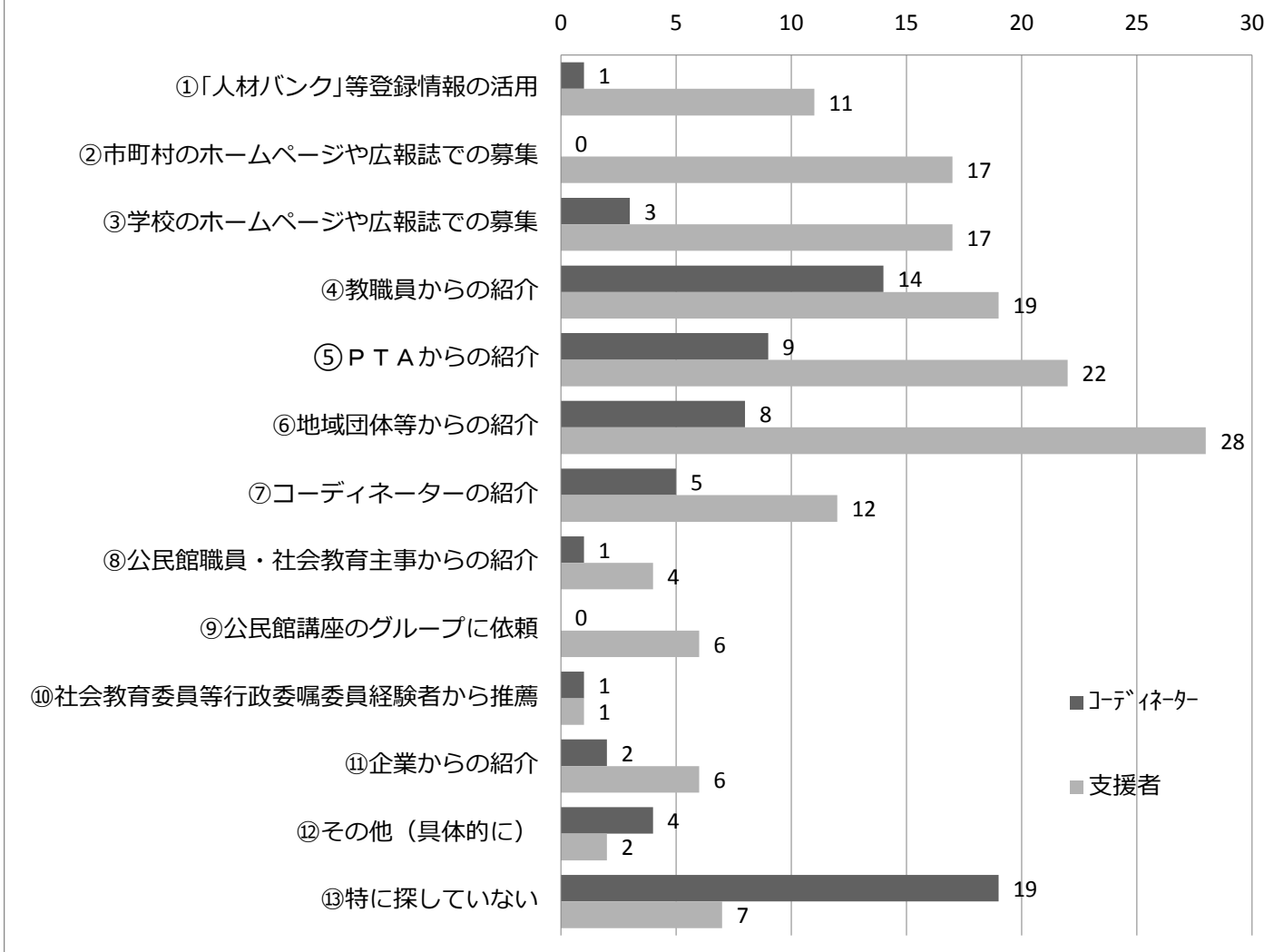
その他

- ・コーディネーターと学校と年間活動計画等についての打合せの実施
- ・大学生ボランティアの募集・登録を行い、各小中学校に派遣している。

8 問4①～⑦までのコーディネーターの放課後子ども教室や土曜日の教育活動の兼務の有無



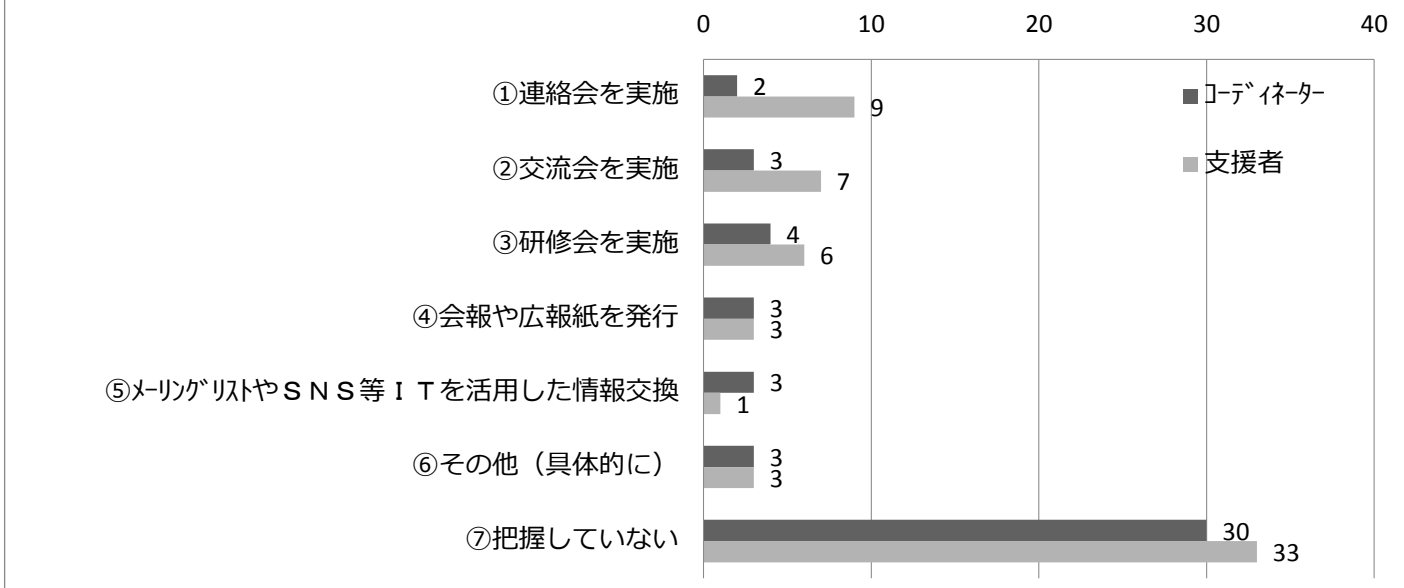
9 コーディネーター候補者及び地域支援者の発掘方法（いくつでも）



その他

- ・コーディネーターは候補者を選んだあと、講座等を開設し養成していく。
- ・積極的にボランティア活動されている方からの人選
- ・市役所の他部署からの紹介

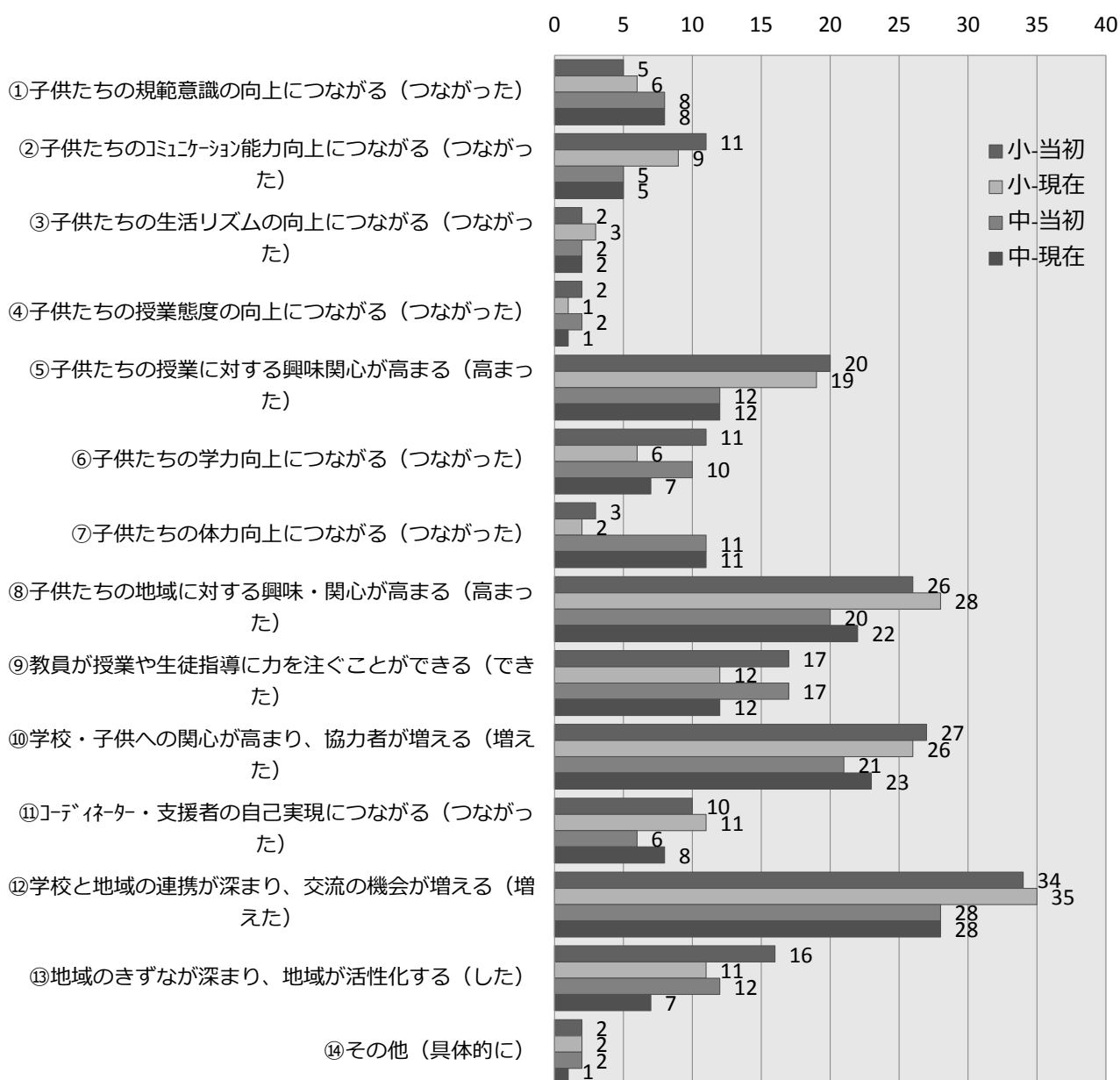
10 コーディネーターや地域支援者の間の自主的な組織や活動があるか。（いくつでも）



その他

- ・NPOを立ち上げ、児童の健やかな成長を目的に様々な活動を行っている。
- ・他校や他市町のコーディネーターとの情報交換を兼ねた交流

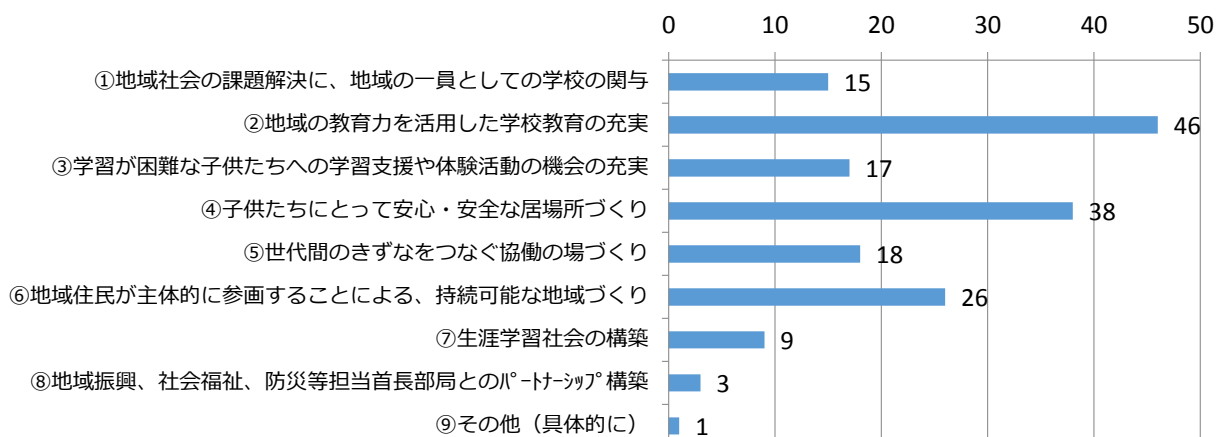
1 1 学校支援の取組を導入した当初のねらい、また、現時点での導入した成果・効果（5つまで）



その他

- ・安全安心な学校づくり
- ・キャリア教育により生き方を学ぶことができた

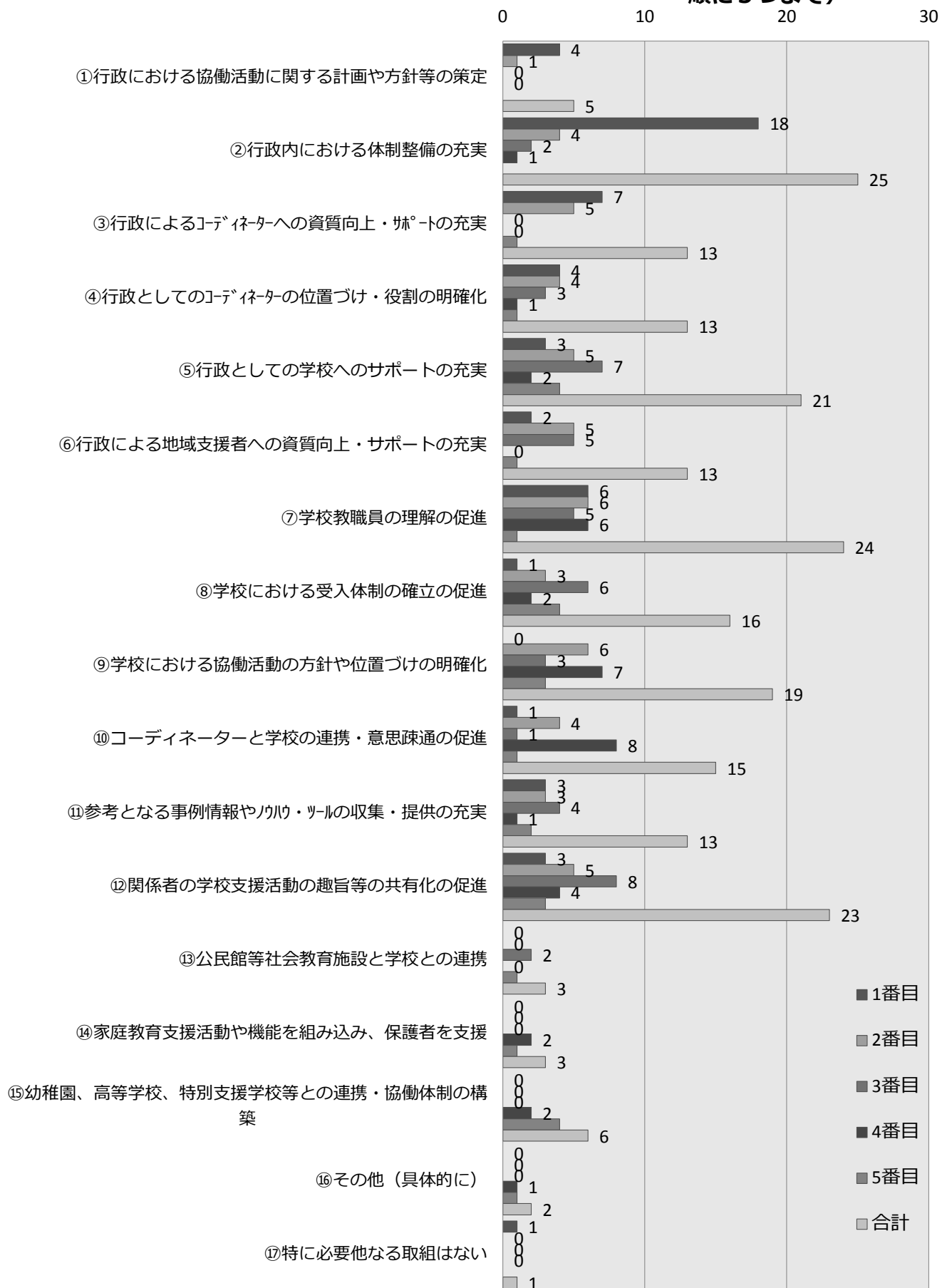
1 2 今後の地域と学校の協働活動の目指す目標・意義（4つまで）



その他

- ・学校を核とした街づくり
- ・コミュニティハウスを各地区に整備予定（子育て支援課）

1.3 地域学校協働活動の取組を推進させていくための方策（必要と考える順に5つまで）

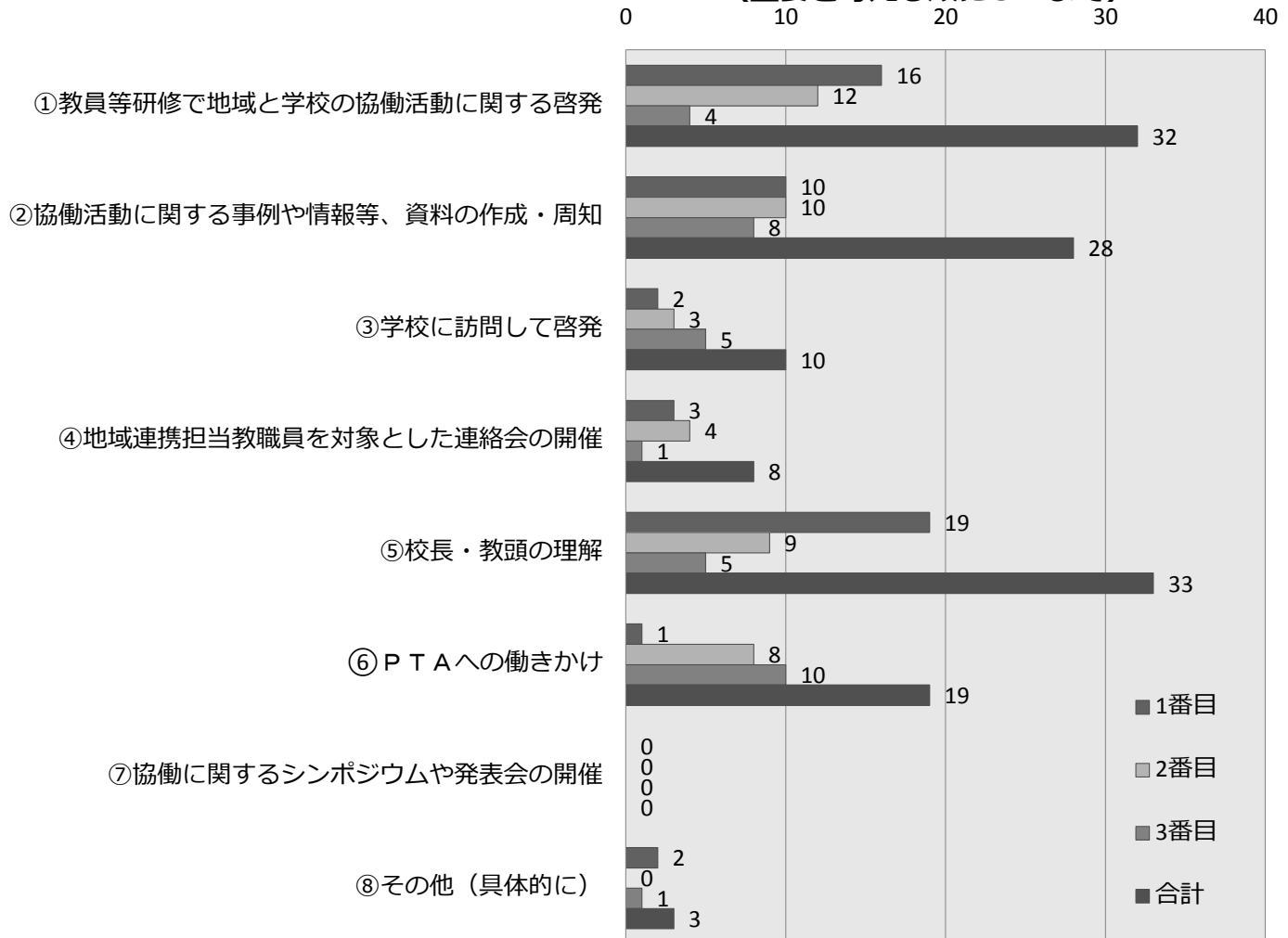


その他

- ・学校のニーズに合ったボランティアの人材発掘、ボランティアの方の意欲及びモチベーションの維持・向上のための支援
- ・地域全体へ地域で学校を支えるという意識付けの促進

14 学校教職員に対して地域学校協働活動の理解を促進するための方策

(重要と考える順に3つまで)



その他

- ・学校教職員及びPTAへの協力・理解促進のための研修会の実施
- ・管理職の地域理解とチーム学校を意識したリーダーシップが最も重要だと考える。
- ・日常的な連携の充実
- ・学校に負担がかからないようにすること。

15 現在、地域と学校の協働活動に取り組んでいない主な理由

- ・多世代が交流し、支え合い、分かち合える地域社会を目指しており、学校限定では、取り組んでいない。
- ・これまでも地域の方と学校が連携した様々な取り組みを行っています。ですから、あえて地域コーディネーターや地域支援者による協働活動を行う予定はない。
- ・予算的・人員配置的に取り組める状況にない。
- ・民俗行事を基盤とした社会資本が地域にあり、比較的地域での子どもの見守り体制が整っていること。そのために、地域と学校の協働活動への取り組みがあまり重要視されていないため。
- ・中学生に対し、寮にて企画するナイトサークルへ生徒が希望する種目を行っている住民が指導を行う他、小学生に対し文化協会員が太鼓を教えるなどの活動を行っているが、本調査に該当するほどの体制及び規模ではないため。